会 議 録

<会議名称> 令和6年度 第1回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和6年11月26日(火)

<時 間>16時~17時10分

<場 所>岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

田邊校長	池内校長	村澤教頭	西村教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	○

(教育委員会事務局)

長岡学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	松本人権教育課長	村上指導主事
○	○	■	○

(学識経験者)

山口教授
■

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 委員自己紹介
3. 説明
 - ・小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等
 - ・各中学校区の取組み状況について
4. 意見交換等
5. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・岸和田市小中一貫教育基本方針
- ・岸和田市小中一貫教育推進会議 設置要領
- ・小中一貫教育取組み状況一覧
- ・令和6年度第2回小中一貫教育担当者会研修資料

1. 教育委員会挨拶

【長岡委員長】

皆さん、こんにちは。学校教育部の長岡です。1時間ほど前から、すごい雨が降っています。天気というと、今年の夏は本当に暑い中、やっと10日ほど前ぐらいから急に涼しくて、涼しくなったというより、もう冬が来たみたいですね。委員の皆さん方におかれましても、健康には十分注意していただいていることかと思えます。

この小中一貫教育の推進会議ですが、私が記憶しているところでは、令和3年から始まり、この会を開催するにあたり、私自身の過去を振り返りますと、初任者の頃、30年ほど前です。小学校と中学校、あるいは、横の小学校同士が、連合運動会など、交流して行ったという記憶があったり、あるいは、小学校と中学校の教師と一緒に研修などを行うなかで、やはりお互いの顔を知るという意味で、懇親会なども校区でよく行われていたりという記憶がございます。

そんな中で、同じ校区に住む子どもたちを同じ視点で見るといふ思いが非常に大切に、またお互いの顔を知るといふことは、生徒指導の問題等が起きた際にも、お互いの顔を知っていることで、非常に連絡がしやすかったとか、そういう意味では教育の中で、助けになったという記憶があります。

令和3年に始まった会議で、岸和田の子どもたちを教育、育成していく中で、働き方改革の視点も踏まえながら、新たな負担というよりも、子どもたちにとって、どのような連携をすることで、お互いの働き方が良くなったり、子どもたちがより伸びていったり、そのような前向きな推進会議にするということが一番の目的だと思っています。この後、いろいろ皆さんからご意見いただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

2. 委員自己紹介

3. 説明

【長岡委員長】

それでは次第の3つ目、「説明」です。事務局のほうからお願いします。

【村上】

<小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等>

それでは次第に沿ってご説明させていただきます。

まず初めに小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等についてご説明します。配付資料「岸和田市小中一貫教育設置要領」をご覧ください。まず推進会議の目的についてですが、本市の小中一貫教育における諸課題とその解決方法などについて、幅広く議論し、本市小中一貫教育を評価・改善しながら進めていくことを目的に、推進会議を設置しております。

組織については、学校教育部長、学校教育課長、人権教育課長、学校教育課指導主事、小学校長会代表、中学校長会代表、小学校教頭会代表、中学校教頭会代表、小学校教員代表、中学校教員代表をもって組織するものとする。委員長を学校教育部長が、副委員長を学校教育課長が担うものとし、委員長が必要と認める時は、学識経験者の参加または助言を求めることができるとなっております。

内容としては、小中一貫教育の学校運営に関する事、形態に関する事、教育課程や指導体制に関する事、教育活動の評価に関する事、施設一体型と分離型における具体的取組みに関する事、その他推進に向けて必要な事項、これらについて審議を行うとなっております。その他については資料をご覧ください。

<各中学校区の取組状況>

続きまして、各中学校区の取組状況についてお伝えします。別紙「小中一貫教育取組み一覧」をご覧ください。昨年度に各中学校区において、小中一貫教育推進計画を作成していただきました。それを受けて、本年度各校区において、小中一貫教育の推進ということで取組みを進めていただいているところがございます。

まず、教育委員会の関わりについて、1学期に小中一貫教育担当者会を1回、そして2学期に第2回を行っております。第1回目につきましては、昨年度もお示しさせていただきました、パワーポイント、小中一貫教育についてというのをご説明差し上げた後に、そのあと各校区に分かれて協議を行いました。9月の第2回目につきましては先ほどもご紹介差し上げました、山口教授から講義を行っていただきました。後ほど委員の皆様からも、取組状況等補足していただけたらと思っておりますが、現在、市教委で把握していることを申し上げます。

岸城中学校区です。

左側には小中一貫教育の目標、そしてめざす子ども像を掲載しております。

児童生徒の実態としては、人との関わり方に少し課題がみられ、自分の思いが通らないときに、力で表現してしまう傾向がある、そのような実態が課題として取り上げられています。

小中一貫教育目標として、望ましいコミュニケーション力の育成。めざす子ども像として、よく考え、思いやりを持って、お互いのよさを認め合うことができる子どもということで、それぞれ設定しております。

現在までの取組状況は、校区でソーシャルスキルトレーニング、岸城校区はちきりんタイムと名付け、この取組みを推進しております。そして英語教育について、統一した取組みをめざして取組みを進めています。また生徒指導担当で月1回、校区の連絡会を行い、事例の共有、そして指導方針のすり合わせ等々を行っております。今後は、生徒会と児童会で校区のサミットを計画しており、次年度は小中合同研修、道徳、人権を柱に、研修を行うとのことです。

続いて光陽中学校区です。

児童生徒の実態としましては、基本的な生活習慣は概ね身につけているが、その反面、自己肯定感や自己有用感を、さらに高める必要があるという実態を把握し、小中一貫教育目標として、みんなが輝く学校～知徳体、調和のとれた人づくり～とし、めざす子ども像として、自ら進路に向けて課題を見つけ、粘り強く取り組む子ども。人としっかりつき合っていける子ども。自分の意見を、必要なときに言うことができ、人の意見を受け入れることができる子どもと設定しております。

現在までの取組状況は、今年度は小中教員間、小小教員間の連携を中心に取り組んでおります。学期に1回、相互の授業参観、生徒指導担当者会も行っております。また子どもどうしの交流として、先日東光小学校にて100周年の記念式典がございました。その際に、光陽中学校の吹奏楽部が出前コンサートに行き、校歌を演奏するという交流も行ったとのことです。3学期に行

われる体験入学にも、小中一貫の視点を取り入れる予定と聞いております。

続いて野村中学校区です。

児童生徒の実態として、明るく人懐っこい生徒が多く、朝陽小学校からの入学者が95%以上を占め、課題としては、基本的な生活習慣の確立、基礎的基本的な学力の定着と把握し、小中一貫教育目標として、豊かなかわりで、自分も他人も尊重できる児童生徒の育成とし、めざす子ども像として、自ら学び、自ら考える子ども。違いを認め合い、人、もの、時を大切にする子ども。体力の向上と心と体の健康を守る子ども。と設定しています。

これまで小中で、スクールソーシャルスキルトレーニング、野村中校区は「NOMU タイム」と名付けており、この導入に向けて取組みを進めています。このトレーニングについて中学校から小学校へ研修に行き、職員研修を行い、現在取組みを進めています。

続いて桜台中学校区です。

児童生徒の実態として、計画的に学習を進めることができる子が多い。一方で学習に主体的に向き合うこと、または、読解力や、聞く力に課題があり、子どもたちが素直であるゆえに、受け身な子どもが多いというように把握しています。小中一貫教育目標として、未来をたくましく切り拓く児童生徒の育成。めざす子ども像として、主体的に学び、自信を持って生活できる子ども、自分も周りの人も大切にする子ども。周りの人と積極的に関わることができる子どもとしています。

これまでの取組状況として、体育科の教員が小学校へ行き、高学年を中心に、体育の授業を行っていたり、小中合同研修を三部会に分かれて行ったりしています。また、英語教育において、小中でカリキュラムの作成に向けて、それぞれの教員が行き来しています。加えて小中相互授業参観を実施していると聞いています。

続いて葛城中学校区です。

子どもたちの実態として、3小学校ともに、小規模校であり、ほぼ6年間クラス替えを行うことがないということで、人間関係が固定化してしまったり、時折思い込みや、言葉の不足でトラブルが起きてしまったりする現状があります。一方学習面においては、学習活動に落ち着いて取り組んでいると把握しています。小中一貫教育目標として、自ら考え、お互いを高め合い、豊かな心を持ち、自立した子どもの育成、めざす子ども像としましては、力強く根気強く学習に取り組む、新しい時代を豊かに生きぬく子と設定しています。

これまでの取組状況として、5月に各ブロックで集まり、夏休みに合同研修を行っております。生徒指導や特別支援教育など、カテゴリ別に行っています。今年度は、特に小中、そして小学校同士の先生方の顔と名前が一致するようというので、たくさん機会を設けているようです。また、子どもたち同士の関わりについては、中学校から小学校へ、挨拶運動の出前を実施しています。ただし、東葛城小学校のみ、少し距離があるということでまだ実施はできていないようです。次年度につきましては、教科指導において、学びの連続性というところに着目をし、協議を行うと聞いております。

続いて土生中学校区です。

土生中学校区は、全国学力・学習状況調査等の結果から、国語については、基礎的基本的な知識については、大きな課題は見られないが、自分の思いをまとめたり、自分の考えを述べたりするところについては課題が見られたということです。また、自尊感情や自己肯定感に関する部分

では、課題は見られるものの、経年で比較すると、徐々に上昇傾向というような分析になっております。それらをもとに、小中一貫教育目標として、望ましいコミュニケーション力の育成、めざす子ども像として、自らの考えをしっかりと持ち、適切に表現することができる子ども、他者を尊重し、様々な意見や考えを受け入れ、ともに成長していくことができる子ども、自分も他人も大切にできる子どもと設定しております。

取組状況としては、夏季合同研修を特別支援・生徒指導・人権・研究、4グループで行ったり、校区のスクールカウンセラーの先生に研修を行っていただいたりしたと聞いております。部会ごとに集まって、2学期の計画を立てて、その計画に沿って実施しているそうです。また、コミュニケーション力の育成ということで、この校区についても、ソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいく予定です。今後、生徒会や児童会の交流も計画していく予定です。

続いて久米田中学校校区です。

児童生徒の実態については、やはり学力が最も喫緊の課題だということで分析をしており、基礎的、基本的な力をしっかりと育成すること。そして、この校区は、テレビの視聴時間や、携帯電話、またはスマートフォンの利用時間が長い児童生徒の割合が非常に高いということ、そして、メールやLINEゲームでの友達との関わりが多く、対話を通したコミュニケーションに課題を持つ児童生徒が多いという分析になっています。それを踏まえ、小中一貫教育目標として、知徳体、調和のとれた児童生徒の育成、めざす子ども像としましては、ちがいを認め、自ら考え、学び合い、心身ともに健やかな子ということで設定しています。

今年度の取組として、校区の合同研修を行っており、人権、生徒指導、学力でローテーションを組み、研修に取組んでいくと聞いています。また、研究主任を中心に、英語教育において、カリキュラムの連続性、わかる授業づくりに取組んでいるということです。また、生徒指導、児童生徒支援コーディネーターで定期的に打ち合わせを行い、指導方針のすり合わせや情報共有を行っており、夏休み中には、中学校から小学校へ「くめろんタイム」という、ソーシャルスキルトレーニングの研修を出前で行っていただいていると聞いています。

続いて山直中学校校区です。

児童生徒の実態については、学校で学習に対して前向きに取り組んでおり、その反面、家庭での学習時間が短いことが挙げられています。また、生活面については、大半の子どもたちが一定のルールを守りながら、学校生活を楽しんでいるという強みがありながらも、自己肯定感については、自分に自信を持ち、前向きな行動や思考ができにくいというような課題を把握しております。それらをもとに、小中一貫教育目標として、未来をたくましく切り拓く児童生徒の育成、めざす子ども像として、主体的に学び、自信をもって生活できる子ども、自分も周りの人も大切にできる子ども、周りの人と積極的に関わることでできる子どもと設定しています。

これまで小学校の先生が中学校へ授業参観に来るという機会を設定したり、担当者会を夏季休業中に、管理職、担当者、研究主任、特別支援コーディネーター、生徒指導で担当者会を行ったりして、計画の練り上げを行っております。次回は冬季休業中に行うと聞いています。今後、生徒会・児童会の繋がり、子どもたち同士の繋がりを作りながら、3学期の体験入学時にも、この小中一貫の視点を取り入れると聞いています。

続いて春木中学校校区です。

児童生徒の実態として、学力面においては、読む力や書く力の様々な面で課題があり、活字を

読む機会が極めて少ないことが課題であり、生活については概ね落ち着いて学校生活を送っているが、携帯電話等の利用時間が長い児童生徒が多いことが課題。人間関係づくりについては、自己有用感が全体的に低い傾向があると実態を把握されております。小中一貫教育目標として、自信をもって活躍する社会人の育成。めざす子ども像として、豊かなコミュニケーション能力を身につけて柔軟に物事を考えられる子どもと設定をしております。

これまでの取り組みですが、推進計画通りに実施ができていると聞いています。夏休みの合同研修については、ソーシャルスキルトレーニングについて取組み、3学期も研修会を実施する予定だと聞いています。また、小学校、中学校から小学校への授業参観の機会を設け、3学期の入学説明会にも、小中一貫の視点を取り入れると聞いております。

続いて、北中学校区です。

児童生徒の実態として、全国学力・学習状況調査の結果から、特に記述式問題の正答率が低く、その中でも国語において無回答率が高く、コミュニケーションについて課題が見られると実態を把握しております。それらをもとに、「世界に羽ばたけ！共に学び、共に育つ、きーたん（北中学校区）の子どもたち！！」と設定をし、めざす子ども像として、主体的・協働的に学びながら、努力を惜しまず最後までやり遂げようとする子ども、自分を大切に、家族や仲間を大切にできる子ども、自分が育つ街に誇りを持てる子どもと設定しています。

ここまでの取組状況については、夏休み中の研修で不登校支援について校区で研修を行っております。生徒会活動では、ファーストリテイリング社の服のチカラプロジェクトに校区で取り組んでいます。小中一貫教育合同会議では、3本柱で行っています。子どもたち同士の関わりについては、10月に城北公民館で、北中校区フェスティバルを実施しております。小学校から約300名程度、参加し、盛況に終わったと聞いています。クリスマスイルミネーションも計画中だと聞いています。また英語教育について、英検を小学生も中学校で受験できるようにしています。

最後に山滝中学校区です。

児童生徒の実態として、何事にも真面目に取り組もうとする子どもが多く、学習の基礎基本については身につけてきている一方で、読解力や思考力に課題が見られる子どもが多い。また、行事等に前向きに取り組む、やり遂げようとする姿勢が見られる。今後行事等で身につけた主体性を多方面で生かしていきたいと、実態を把握されています。小中一貫教育目標は、自主性に富み、調和のとれた人間性豊かで自立した子ども、めざす子ども像としては、言葉の力をつけ、思いや考えを豊かに表現できる子ども、社会の中で価値観を広げ、活躍できる子どもと設定をしています。

これまで、行事について、相互に行き来をして参観する取組をしております。今後は授業の相互参観について、実施を予定しています。また、その都度担当者が集まり、小中一貫教育の推進に向けて協議を行っているという聞いております。

各中学校区の取り組みにつきましては以上となります。事務局からは以上でございます。

【長岡委員長】

ありがとうございます。事務局の方から小中一貫教育推進会議の目的、組織役割と、設置要綱についての説明と、市内中学校区の間取組み状況を報告いただきました。この2点につきまして、委員の皆様方からご意見等ありましたらお願いいたします。

【何森委員】

意見とか質問でもよろしいでしょうか。

【長岡委員長】

はい。どうぞ。

【何森委員】

いろんな学校の取り組みを聞かせていただいて、自分の学区のことは全く知らないこともあったりするのが以前もお話させてもらった通りです。欠員があったり、生活指導が大変な学校で、ここまでやっているのかなど、驚くような内容もありました。ずっと無理をしない範囲でという話も確認させてもらってきていますが、それぞれの学校、中学校区がこのような取り組みをするときに、どのように負担軽減を図っているかということはどう把握されていますか。

【村上】

各校が小中一貫教育を進める上での負担軽減ということでしょうか。

【何森委員】

そうですね。

【村上委員】

今回、取組状況を中学校の校長先生を中心に聞き取りをさせていただきました。何森委員がおっしゃるように、例えば小規模の学校については、会議を開くとか、相互参観をすると言っても人手が足りなくて、難しいということでした。学校で様々な面で融通しながら、負担を軽減していると聞いています。その他の学校についても、無理のない範囲で、取組を進めていくという前提もありますので、この計画通りにすべて進まないといけないというより、今年度については、先生方が、名前と顔が一致する、お互いの学校のことをしっかり知ること、中心に取り組んでいるということが多かったです。

【何森委員】

1つ意見だけさせていただいて、この間ずっと、ここで話し合ったことが十分周知されているのかという話をさせてもらっていると思います。前回も、この会議録をすべての学校長に見ていただくという話をしたこともあったと思いますが、実感として、あまりしっかり伝わっている感じがなくて感じています。そのことについて、委員会事務局はどのようにアプローチされるのかということとはとても気になっています。例えば、このような報告が上がってくるときに、どのような配慮がされたのか、あるいは、このように配慮すべきではないかということ、経過を集めるだけではなくて、何を削ったかとか、どのような配慮がなされたのかということをする自体が、必要ではないかと思います。なかなか、伝わっていないという実感があるので、そういうことも含めていただく必要があるのではないかという意見です。

【長岡委員長】

ありがとうございます。今回まとめていただいたものの周知については、取組一覧の表などは、学校に、おろすことは可能ですかね。もう1つは、今何森委員からもありましたが、学校がいろいろ工夫をしてやっているというご意見もある中で、実施する中での工夫もまとめる必要があるということですね。私の経験で言うと、生徒指導面で課題が大きくて小中が連携したという記憶があります。連携することで、中学校に卒業させた子が小学校にいたずらに来て、中学校の先生に任せきりではなく、連携しながら一緒に対応したとか、そんな経験もあるんですが、取組みの中で工夫や、連携することで、こんなプラスがあったとか、忙しい中でもってということなど、何か聞いていることがあれば、お話していただけたらと思います。

【松本秀委員】

ちょっとその前に、あくまでもこの会は推進会議なので、今村上の方から説明させていただいたのは、校区でこれだけの取組を進めているという内容になるので、その部分では今報告したことが全てではありません。今、何森委員がおっしゃったように、そんな中でも課題があるっていう部分ですが、村上からの報告は、推進会議の中での報告と捉えていただきたい。学校でこれが負担になっているかという部分で、負担のないようにというスタートをしているので、その辺の部分を校長先生方がどれだけ周知できているかというところ、校長先生もそれぞれのとらえ方があるかなというふうに思います。特に、昨年度から桜台校区がモデル校区ということで、職員の方には、いろいろ周知していただき、基本は負担にならないようにというところをベースで行っている状況です。今まで校区でやってきたことを文字に書いているだけというところも、そういう部分もあると聞いております。どのような工夫があるかというところについては、担当として聞いていますか。

【村上委員】

工夫というか、特に夏休みの校区職員研修について、校区で統一したテーマ、もちろん子どもたちの実態も似通っているということで、それに一番合致するような研修を打つということで、それぞれ各学校がバラバラにいろいろ研修を行うよりも、校区で行うことで、研修の企画をする先生方の負担の軽減にもなっているとのことでした。校区で統一した講師の先生に来ていただく、そこでいろいろ教員間でも話ができるということで、非常に取組み的にはよかったと聞いています。

【長岡委員長】

なるほど。1つの学校で研修をするのに例えば5本研修する際には、5人の先生とやりとりする必要があるが、校区で担当を分けることで、その負担がちょっと軽減したという話もあるということなんですね。それに対してでも結構ですし、他の委員さんの方でも何かご意見があったら、そういうプラスのことはありますか。あとで課題のことについては、次のところで出していただけたらと思います。

【池内校長】

桜台中学校区では、小中一貫教育に取り組む中で、もし負担が増えることであれば、何かを減ら

さないといけないとか、減らす部分については様々な業務の中で、ICTを活用して、減らせる部分は、減らしていこうということで積極的に業務改善に繋がるようなことは、取り入れているのが実態です。例えば、市が入れてくださった留守番電話にしても、打ち切る時間を早くしています。導入当初はクラブが終わってから18時半にしていたのですが、先日もテトルを入れていただいたおかげで、朝の業務や電話対応、夕方や、お昼時間についても業務軽減がなされています。電話対応時間についても、短くしています。8時から18時というふうに短くしたりとか、採点ソフトを入れていくことで、教科の採点についても、従来はかなり採点業務も時間がかかっていたのが、3分の1ぐらいの時間になり、圧倒的な業務軽減になっています。そのように改善された時間の中で、隙間時間で新たな部分に取り組みようになっています。桜台中学校では、小中一貫教育基本方針や、こういう方向で進んでいるという、周知すべきものや資料については全部、先生方が、隙間時間に見れるように、フォルダ等に入れてありますし、今回中学校区でやってみてよかったのは、例えば、小学校の方でも、常盤小学校も光明小学校も、職員でグーグルのクラスルームを作成して活用して、様々な周知資料や職員連絡ができるようにしています。小学校で取り組んでいるタブレット教材、具体的に言えばキャンバを用いて、ポスターづくりとかもさせているということを知れば、小学校でここまでできているんだったら中学校はここまで取り組めるというような連携ができたりもしています。英語教育についても、小学校から授業に来て欲しいという要望があれば、中学校の英語科の教員は負担が若干増えるけれども、逆にその職員が、小学校の先生と連携してくれる代わりに、中学校の業務を何とか軽減できるように考えてみるねとか、いろんな工夫を取り入れています。おそらく他の学校の校長先生も、工夫はされていると思います。特に採点ソフトに関しては、全中学校で取り入れるように便利な点を周知させていただいています。だから、直接小中一貫教育の業務の中で、これを減らすとかではなく、業務全体の中で、かなり減らせる部分を減らして、取り組んでいる状態です。

【長岡委員長】

ありがとうございます。今のお話の中で、教職員の負担軽減の視点で効率化されたというお話でした。小中一貫教育を行う中で、子どもにとってよかったことについてお聞きします。本来の目的は子どものためにだと思のですが。子どもがこうすることで、すごく伸びたとか、心が豊かになるとか。さきほどの英語の話も、教員は工夫ができたというのはあるんだけど、子どもたちにとって、中学校に上がったときに英語がすごくスムーズに行くとか、子どもがすごく伸びたとか。それがなかったら、小中一貫教育を行う意味がないんじゃないかと思います。本来は子どもの伸び、効果が何かというのを突き詰めていかなければならないと思います。何か各校で聞いていることはありますか。

【川本教諭】

報告が上がっているかどうかわかりませんが、野村中学校区では小中一貫教育に取り組む際に、できるだけ、手間隙かけないで、効果が上がるようにということで、取組を1つに絞っています。

NOMU タイムっていうのは、アドジャンとか、質問ジャンケンとか、二者択一とか、プログラムが決まっているので取り入れやすいです。一方で、子どもたちがコミュニケーションをとって、能

力が上がるから、野村中学校でしたら、授業の班学習で、以前よりも、意見交換が活発になったというような効果も出ています。業務を削る一方で、できるだけ効果が上がるようなことを考えるっていうのが1つだと思います。

【長岡委員長】

ありがとうございます。他にございませんか。

【西村教頭】

山直中学校は、生徒指導上課題もある学校ですが、小中での取り組みを共有していく中で、今の校区の子どもたちに何が足りないのかを、例えば6年生はここが課題で5年生はこっちが課題だとかいうことも共有することができて、中学校に入学したときに最初に重点的に、補填したりとか、もともとは子どもたちの状況もわからない中で手探りでやってきていたところも、きちんとか対応できるようになってきて、子どもたちもスムーズに中学校生活に入れるようになっていう部分も小中一貫の良い部分だと思います。小中一貫の会議でも3校長の方から、無理のないようにという言葉と、取組を精選していこうと意思統一がありました。会議に出た職員と、学校に持ち帰り、職員会議等でも、校長から、全職員に周知がありました。その中で負担感を、もちろん導入当初はあるかもしれないが、それが、繋がっていくことで、池内校長からもありましたが、繋がっていくことで、どんどん楽になっていっているという感覚は教員からも聞いています。昨年授業参観に、全部の小学校に見に行かせてもらったことが、次の中学校1年生のときに役立っているの、取組の中で成果が出た1つだと言えると思います。

【長岡委員長】

ありがとうございます。次第の3番については、委員の皆さんよろしいでしょうか。では4番の意見交換に移ります。取組を進めるにあたり、整理すべきところや課題などを挙げていただければと思います。例えば、校区の中で、今、手だてが打ててないとか、そんなようなことがあれば、今おっしゃっていただきたいです。そのあと、小中一貫教育を各校区で進めているけれども、こんなところが課題だと、全市的に共有して整理する中で、この会議として、学校長に下ろして、先ほど何森委員からもありましたが、学校長から、他の教職員まで十分に情報が届いていないというのは、この会議の課題だとあるかもしれません。そのような意味で、ご自分の校区として課題だというご意見があればお願いします。

【田邊校長】

久米田中学校区ですが、今回小中一貫でいろいろ取り組みをやっていきたいと思いますということで、合同の研修を行う際に、人権、生徒指導、学力というそれぞれのグループに分かれて、それぞれの担当での話し合いをしました。教育目標とめざす子ども像のところにもありますが、ちがいを認め、自ら考え、学び合い、心身ともにすこやかな子と決めた中で、なかなか、ちがいを認め合っただけで子どもたちがコミュニケーションを取るところが苦手な子どもたちが多い中で、やっぱり関わることが、うまくできる子どもを育てていきたいということで、くめろんタイムをみんなで行うようになりました。校区の教職員全員で子どもたちの、関わる力を育てていくのに、有効だという

形でスタートしています。ただ、学力に関して、久米田中校区で課題となっており、現在英語教育におけるカリキュラムの連続性に着目しながら、わかる授業づくりについては、統一できておらず、十分進んでいないと感じています。現段階で課題をみんなで出し合いながらやっているところなので、いろんな形で模索していきながら、今進めているところです。

【長岡委員長】

ありがとうございます。他の委員さんから、例えばこういう工夫があったら授業づくりも含めて、先生方も、子どもも伸びて、授業研究がすごくスムーズに進んだとか、教えていただけますか。それらをここで共有し、市内全体に発信していけたらいいかなと思います。

【川本教諭】

工夫ではなく、課題だと思いますが、何か新しいことを導入するならば、省けるところは省くというのが絶対課題だと思います。野村中学校もテトルも入りました。野村中学校は市内では先行して、自動採点ソフトを導入しました。学校行事に関して、合唱コンクールを残して、文化祭をコロナの影響もありましたが完全に廃止したっていうようなところで、生み出した時間を新たなことに取り組んでいると思います。

【長岡委員長】

ありがとうございます。そのような行事の精選についても校区で工夫するのも1つかもかもしれません。そのような話題を持ち寄って、こういう効果があったと共有することも有効ですね。他はよろしいですか。

【池内校長】

全中学校区、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れて、集団づくりに取り組んでいますが、それをどのように学力に結びつけていくかということが課題と感じます。全ての授業で話し合い活動であったりとか、探究活動に取り組んだり、どのような授業づくりをすべきかということが、全市的な課題だと感じます。先ほど英語の話も出ましたが、例えば2つの小学校で、ヘボン式を使っている学校と、そうでない学校があったり、そのあたりの細かいところから、やっぱり学力の差になったりもするので、それらもしっかり把握した上で、中学校も授業づくりをできないといけない、そのような課題も見えてきているので、小中で取組みを進めたいと考えています。

【長岡委員長】

ありがとうございます。授業が大事だという中で、今のお話で、学力をもう少し大きくとらえて、生きる力と私はとらえましたけれども、生きる力を子どもたちにつけるために、何を共有したらすごく効果的とかは、校区、校区によってあるということは、それぞれの委員もお持ちだと思います。

【何森教諭】

小中一貫に限らないと思いますが、量は増やさない、できれば減らす。けれども質は下げない、できれば高めるといふ難しいことをしようとしてるわけです。そういうことがあるから、ここでは、新たなことをするとき、無理ない範囲だとか、減らせるところは減らすって話をしているはず。ただ一方で、事務局はいくつか努力をしてくださっていますが、十分に周知されてるとあまり思えないんです。先ほども発言しましたが、例えば取組み状況を集めるときに、何をしましたかって言ったら、それは各学校は取組みを行います。おそらく、いろんなところで検討した以上に現場の先生方は頑張るとかって出てきてしまうわけです。それなら、そのために何を減らしましたかとか、どのような工夫をしてできましたかということも調査することで、もうちょっとアフォードできないかというのが、先ほどから申し上げている意見です。そのことを合わせていかないと、これだけやりましたと頑張って書きます。そのために何かを減らすということではできていないかもしれない。やはり調査をするときは、こういう方向性を、例えば委員会の事務局なんか持っているんだとわかるような調査をして欲しいと思います。これやりました、やったことを出してください。そのために、こんな工夫をして時間を捻出したとか、こんな工夫をしてそれが出来たということも調査しないと、どうしても現場レベルで言うと負担が増えるばかりで減らすのは難しいとなるのではないのでしょうか。

【長岡委員長】

ありがとうございます。

【松本学校教育課長】

先ほど村上からは、この推進の取組を報告させていただきましたが、今回は、軽減案を各学校でどのようにしたかとか、今言っていたいた課題、学校の課題とかも1回調査させていただこうと思います。それも含めて共有できればと思います。それを校長会や教頭会で、市教委からも報告させていただく。また、担当の校長先生や教頭先生からも情報交換のときに共有をしていただければと思います。

【村上】

何森委員からおっしゃっていただいたところもしっかりと取り入れて、聞き取りもさせていただきたいと思います。

【長岡委員長】

ありがとうございます。これを減らしたからこうできるというのもそうですが、その反対もあると思います。これをやったからこれが減りましたというような。これをやったから、生徒指導の問題が減りましたとか、申し送りをする時間が軽減されたとか、これをすることでこれが減った、これを減らすことでこれができた、どちらもあると感じます。昨年度から、進めるという話で進んでいたかと思うんですが、新たな科についての検討を今年度から行うことになっていました。ただ、今回の中間報告を聞く中で、まだまだ連携の部分で、課題とかをもう少し整理しないと、新しい科を、平行してできればいいが、まだまだ組織が構築されていなくて、ちぐはぐになってもだめだと思います。各委員さんの中で、今年度から本格的にというような話が議事録で出

ていますが、もう少し取組みを進めながら様子を見なければならぬと感じましたが、皆さん、どう思われますか。いいですか。それでご意見なければ、検討時期が去年の議事録では今年度から始めるとなっていました。時期をもう少し組織的なところを構築した上でということ、共有していただけたらと思います。もう1つ、何森委員がおっしゃった、事務局としたら、校長会を中心に周知はしているが、現場の先生方まで情報が届かないという課題については、何が問題でしょう。それを、論議して、示していけばいいのではないのでしょうか。

【松本学校教育課長】

1つは、その都度、この会議だけじゃなくしてお話はしていますが、わかりやすいような、職員に渡すような紙面を作る。

【長岡委員長】

委員さんの中でこうしたらもっと先生方に周知できるんじゃないかという方法、もし教えていただけたら。

【松本学校教育課長】

資料等を渡してくれている学校もあるから、それをどう周知していけるかっていうことですよね。噛み砕いて理解できるように、ではなくて、根本的な学校組織の問題ではないか。小中一貫教育に限らず。

【長岡委員長】

今の話でね、校長先生や担当者レベルで情報が止まっていることが課題やということ、それをどのように広げていくかという方法についてです。

【松本学校教育課長】

前回の会議の後に会議録を校長会では渡しています。

【長岡委員長】

校長先生まで届いているが、それが校長先生から職員へ届いていないということですか。

【松本学校教育課長】

そうですね。

【何森教諭】

前回もお話させてもらったと思いますが、教職員一人一人は、このことに意見を言う、言う場がない、あるいは言えると思っていないということが大きな問題だと思います。例えばどこかで何か話があっても、こうなりましたみたいな話で出てくることって結構、この件に限らずあります。こうすることになりましたからそれを検討することになりますというような。でも通常こんなことが出てきています。どうしますかというところから話が始まるんですよね。それがクリエ

イティブな話だと思っただけでも。そうならず、例えば、3校で合同研修をすることになりました。

何をしますか。そういうところから、ちゃんと話をして欲しいという話が、欠けているんじゃないかというのが実感です。

【長岡委員長】

簡単に言えば、この会議でその論議ができたらい。教頭先生の代表、校長先生の代表、職員の代表がいる。そこで委員さんが集約したことをここで挙げてもらう。それぞれの代表の話合った結果、こういうふうな方向がいいだろうとなったらまたそれをおろしてもらう。ということですよ。

【何森教諭】

先ほどの話に戻りますが、負担のことを考えるんだったら、その話をするとともに、そういうものが出せるような様式があって、両面の取組になると思います。出てきたものを見て、なるほどこういうことを考えるということも、この間の話はそう意味だったんだというふうにとらえられるような、調査の仕方というものがきつとあると思うんですよ。そういうものとあわせて、負担のない範囲で、質をどう高めるかとかというふうな本来の目的のところを、事務局の方から伝わるような形にしていかないと。一方的に決まってきたとか、することになったとかになってしまいますのではないかと。

【松本学校教育課長】

気をつけないといけない部分が、あくまでも推進会議なので、軽減策や課題を調査して、それが推進に繋がるような形にならないと、推進じゃない方向になってしまうのが一番よくないかなと思うので、その辺の部分を注意して、考えていきたいなと思います。

【長岡委員長】

時間も近づいてきましたが、皆さんから何かありましたらお願いします。よろしいですか。まとめとして、次回に向けて、整理の部分のところの調査をしようということ、新たな科のことについては、まずは体制づくりを優先して、少し先送りするという。推進については、概ね現在の方向でいいですかね。今日の会議を3点にまとめさせていただいてよろしいですか。では、次第の4番まで終わりましたので、5番については事務局の方に戻します。

【村上】

はい。では、5番のその他に移ります。今後の予定につきまして3点、お話をさせていただきます。まず1点目です。本日もご紹介差し上げましたが各中学校区で作成していただいております、推進計画について、令和7年度に向けて、2月末から3月上旬にかけて7年度計画としてまた各中学校区で提出をしていただこうと考えております。また各小中学校の校長先生方には、事務局よりアナウンスさせていただきます。2つ目です。次回の推進会議につきまして3月の初旬に実施をしたいと考えております。現段階では3月6日木曜日、この辺りを基本として、第2回の推進会

議と考えておりますので、ご依頼文等、調整もさせていただこうと考えておりますのでよろしく
お願いいたします。最後に 3 点目です。来年度の小中一貫教育担当者会につきましては、今年度
と同様、年間 2 回ということで計画しております。このことにつきましても、校長会や教頭会で
アナウンスもさせていただきます。よろしく申し上げます。事務局からは以上でございます。

【長岡委員長】

事務局からその他についてありましたが、委員の皆さんから何かございますか。次回の推進会
議について提案の日で決めてもよろしいですか。3 月 6 日がもうすでに駄目な方はいらっしま
すか。山口教授の関係もあるので、ずれる可能性があるという形でよろしいでしょうか。それ
では事務局、お願いします。

【村上】

ありがとうございました。以上をもちまして令和 6 年度第 1 回岸和田市小中一貫教育推進会議
を終了します。ありがとうございました。